

日比地区自主防災組織防災訓練

平成29年6月17日（土）、午前8時25分に「四国沖を震源とするマグニチュード8.6 震度6弱の大地震が発生した」との想定で、住民は8時30分時報の合図で自宅を出て、自治会ごとに第二日比小学校へと避難した。



梅雨時期のじめじめした暑さの中、次々に第二日比小学校の体育館へ集まってくる約100名の地区住民（訓練中の急病人やけが人の発生は、避けたいものだ。熱中症対策は不可欠である！）



それぞれの自治会長は地域の避難状況及び避難人員を対策本部へ報告した。



その後体育館へ移動し、危機管理課職員が防災行政無線、テレビや防災メールマガジンなどによる災害情報の入手方法や非常持出品などの説明したあと、地震から身を守る訓練（シェイクアウト）を約1分間実施した。大地震発生時、自分の命は自分で守るしかない。

そのための訓練がシェイクアウトである。この訓練は、それぞれの家庭や職場、学校など場所を選ばず、誰にでもできて、実施時間は1分間である。定期的実施することが望まれる。



体育館での講座のあと、グラウンドへ出て、実際に火を焚いて、本物の消火器を使って消火訓練を実施した。訓練用の水消火器でも使い方の練習にはなるが、本物の消火器は、訓練用の水消火器よりレバーが固く、力を少し入れなければならないことを参加者が体感されたことは、非常に有意義であった。実際の住宅火災の場合、消火器で消せる範囲はあくまでも炎が天井に届くまでであり、天井に届いたら、消火器での消火はあきらめて屋外の安全な場所へ逃げること！



最後に消防本部の職員が地震体験車を持ってきて、南海トラフ巨大地震の説明のあと、一人一人が地震体験車に乗って、最大震度7を体験した。体験者は口々に「揺れるのが分かっているのに、深夜就寝中に大地震が起きたら、恐怖のあまり、何もできないのでは・・・」とのことであった。そのためには、地震防災訓練（シェイクアウト）を定期的実施し、地震の揺れから身を守るすべを体で覚えておくことが重要である！

ちょっと一言防災メモ

昨年4月の熊本地震では多くの犠牲者が発生し、1年以上が経過した現在でも未だ復興途上にある現状において、被災地に対する周辺の元気な地域の応援が不可欠であることは言うまでもなく、一日も早い完全復興を願うものである。

一方、熊本地震において、地震による火災が16件発生したにも関わらず、通電火災が1件も発生しなかったことに注目したい。これは、地震が発生したあと、数日間停電となったが、電気を復旧する前に、九州電力が広報車などを使って、家庭内の電気器具等の使用状況を確認するよう、広報したことが功を奏したものと考えられる。

ちなみに、平成7年の阪神・淡路大震災では、地震により発生した全火災の6割が通電火災であったことから、熊本地震において、過去の大地震の教訓が大いに生かされた結果と言える。